

**第4期岡山県障害福祉計画策定に係る
アンケート調査結果報告書
(抜 粋)**

平成26年 10 月

岡山県

I 調査概要

1 調査の目的

この調査は、第4期岡山県障害福祉計画の策定にあたり、障害のある人を対象に生活実態や支援ニーズ等を調査分析し、必要な施策及び数値目標を定める際の基礎資料とすることを目的として実施する。

2 調査設計

(1) 調査地域 : 岡山県全域

(2) 調査対象 :

調査種別	調査数	回収数	回収率	回収割合※
①身体障害のある方	1,380	889	64.4%	66.5%
②知的障害のある方	350	250	71.4%	18.7%
③精神障害のある方(在宅者)	170	76	44.7%	5.7%
④精神障害のある方(入院患者)	100	56	56.0%	4.2%
⑤発達障害のある方	100	65	65.0%	4.9%
計	2,100	1,336	63.6%	100.0%

※各種別毎回収数の回収数計に占める割合

(3) 調査方法 : 郵送配布一郵送回収

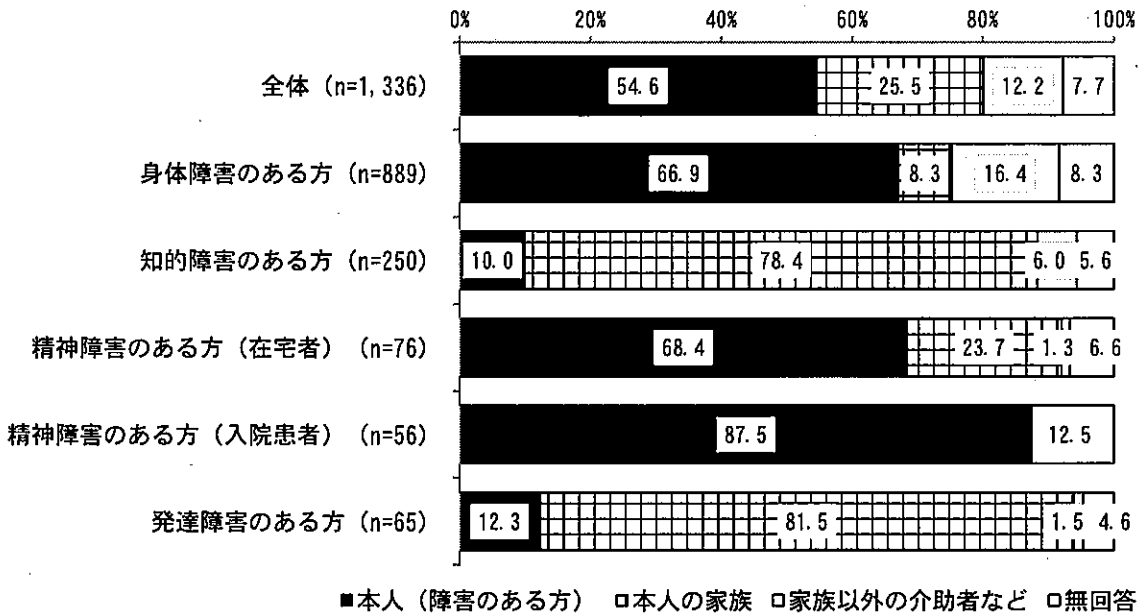
(4) 調査期間 : 平成26年6～8月

3 報告書を見る際の注意点

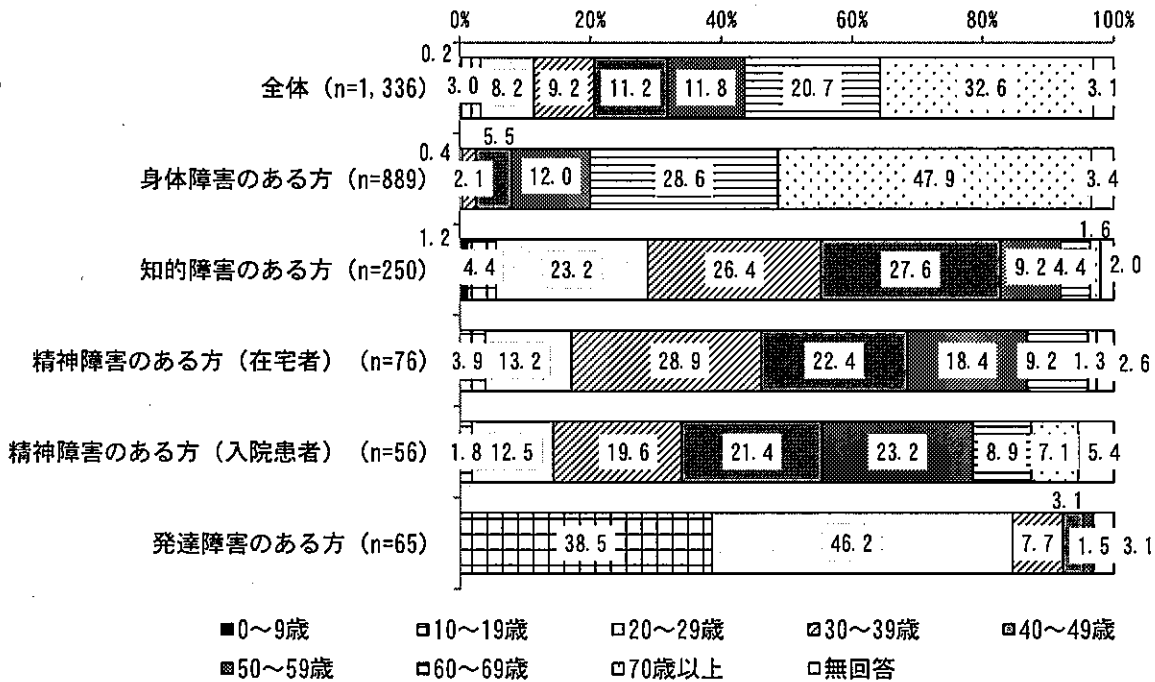
- (1) 比率はすべて百分率で表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出した。そのために、百分率の合計が100%にならないことがある。
- (2) 質問文の中に、複数回答が可能な質問があるが、その場合、回答の合計は調査数を上回ることがある。
- (3) 図中の選択肢表記は、場合によっては語句を短縮・簡略化している場合がある。
- (4) クロス集計は、全体の回答数が100件以上の設問について行った。

II 調査対象の属性

1 アンケート記入者



2 年齢



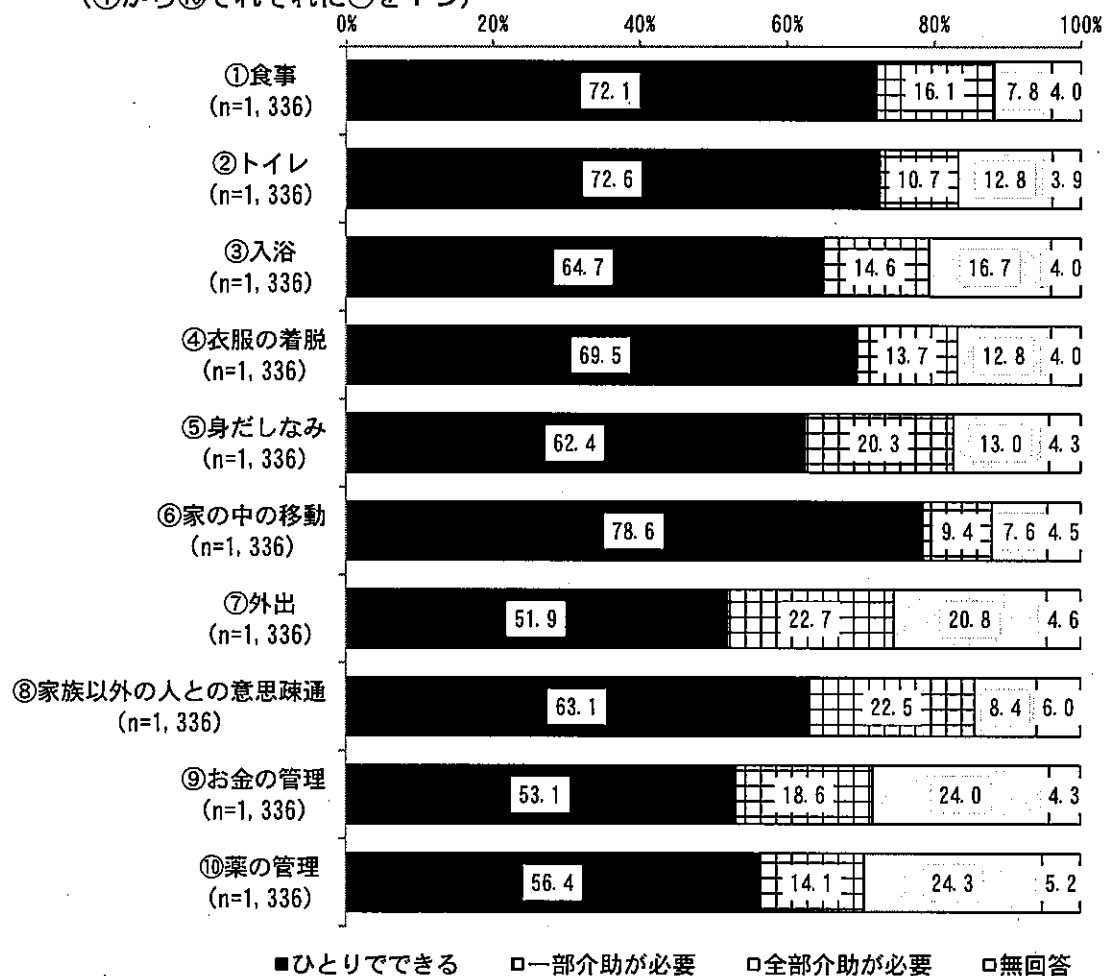
III アンケート調査結果

1 身の回りのこと

(1)身の回りのこと

問6 日常生活で、次のことをどのようにしていますか。①から⑩のそれぞれにお答えください。

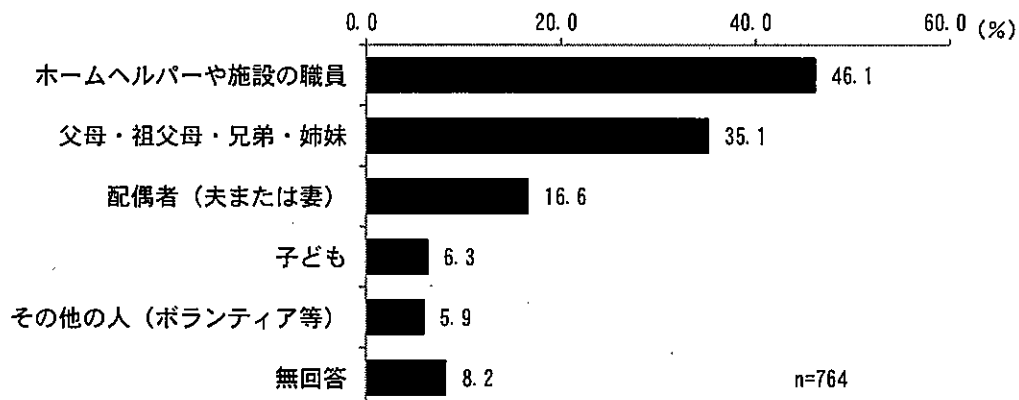
(①から⑩それぞれに○を1つ)



身の回りのことについて、「介助が必要（「一部介助が必要」と「全部介助が必要」の合計）」が高い動作は、「外出」が43.5%と最も高く、次いで「お金の管理」(42.6%)、「薬の管理」(38.4%)となっている。

(2)主な介助者

問7 【問6で「一部介助が必要」又は「全部介助が必要」と答えた方にお聞きします。】
あなたを介助してくれる方は主に誰ですか。(あてはまるものすべてに○)



主な介助者は、「ホームヘルパーや施設の職員」が46.1%と最も高く、次いで「父母・祖父母・兄弟・姉妹」(35.1%)、「配偶者 (夫または妻)」(16.6%)となっている。

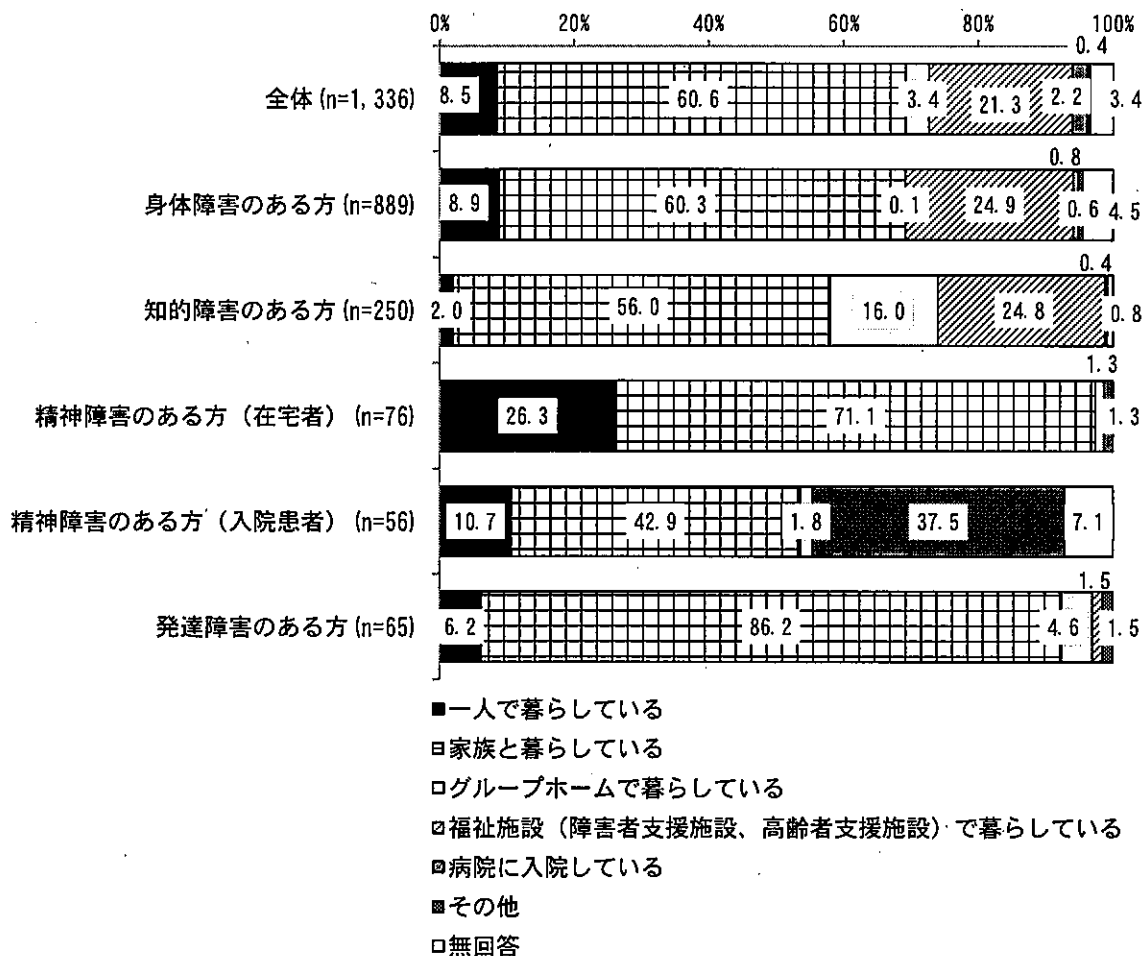
障害別にみると、知的障害のある方、精神障害のある方 (在宅者)、精神障害のある方 (入院患者)、発達障害のある方は「父母・祖父母・兄弟・姉妹」が最も高く、身体障害のある方は、「ホームヘルパーや施設の職員」が最も高くなっている。

	全体	弟・姉妹	父母・祖父母・兄弟	妻	配偶者 (夫または妻)	子ども	施設の職員	ホームヘルパーや	ボランティア等	その他の人 (ボランティア等)	無回答
全体	764	35.1	16.6	6.3	46.1	5.9	8.2				
障害別	身体障害のある方	417	8.4	28.1	11.0	53.7	7.4	7.9			
	知的障害のある方	235	66.0	1.7	-	48.9	2.6	5.5			
	精神障害のある方 (在宅者)	41	56.1	9.8	4.9	22.0	7.3	12.2			
	精神障害のある方 (入院患者)	20	40.0	10.0	-	5.0	10.0	45.0			
	発達障害のある方	51	92.2	-	-	5.9	5.9	5.9			

3 住まいや暮らし

(1) 暮らしの状況

問 18 あなたは現在どのように暮らしていますか。(○は1つだけ)

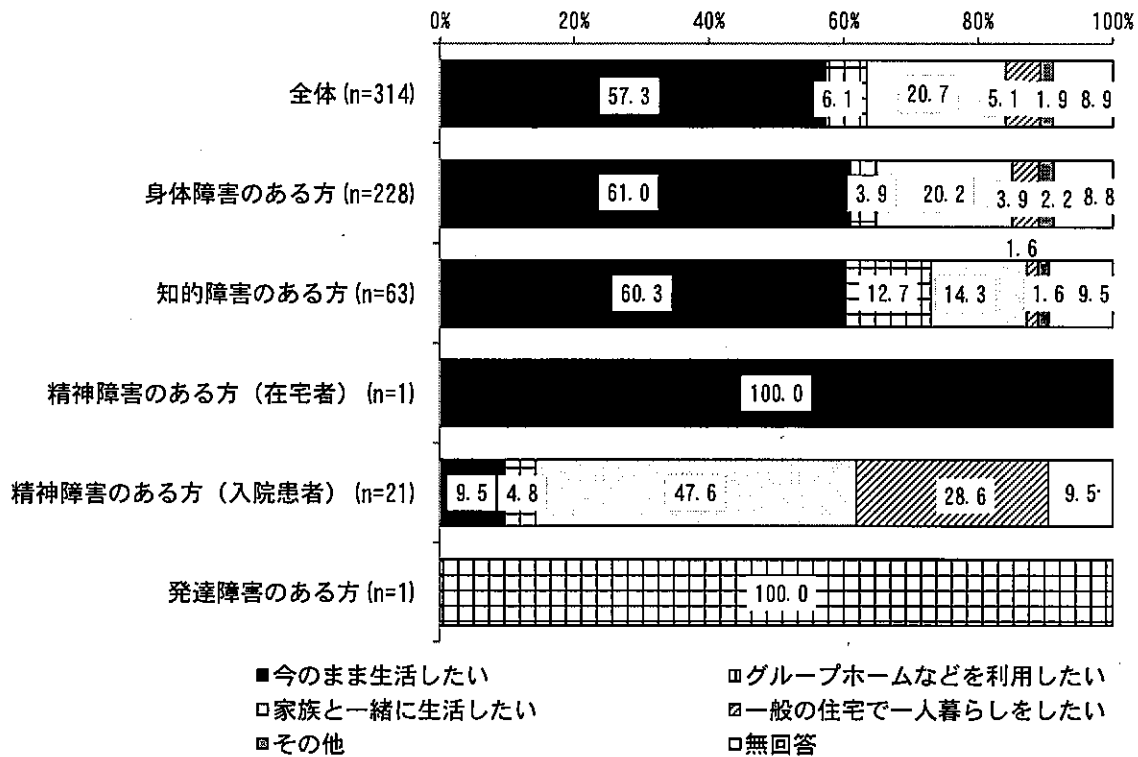


暮らしの状況は、全体では「家族と暮らしている」が60.6%と最も高く、次いで「福祉施設（障害者支援施設、高齢者支援施設で暮らしている）」(21.3%)、「一人で暮らしている」(8.5%)となっている。

障害別にみると、「一人で暮らしている」は精神障害のある方（在宅者）が26.3%と最も高く、「家族と暮らしている」は発達障害のある方が86.2%、「グループホームで暮らしている」は知的障害のある方が16.0%、「福祉施設（障害者支援施設、高齢者支援施設）で暮らしている」は身体障害のある方が24.9%、「病院に入院している」は精神障害のある方（入院患者）が37.5%と最も高くなっている。

(2) 将来の暮らし方

問 19 【問 18 で「4.」又は「5.」を選択した方にお聞きします。】あなたは将来、地域で生活したい（福祉施設や病院以外の場所で生活したい）と思いますか。（○は1つだけ）

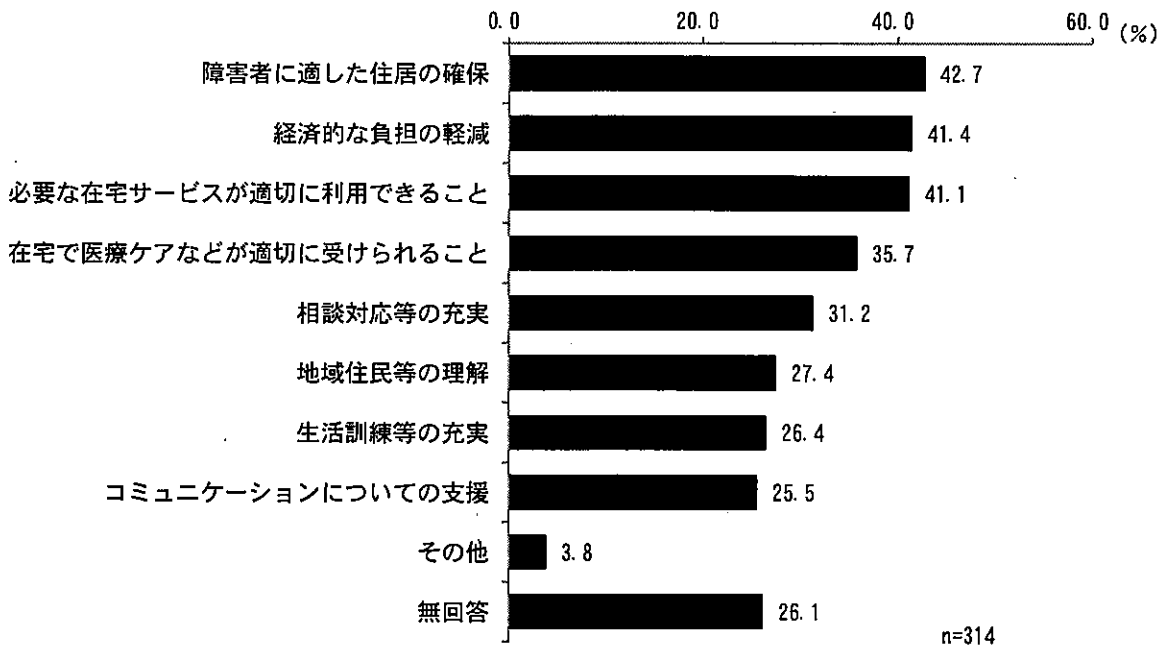


将来の暮らし方は、全体では「今のまま生活したい」が57.3%と最も高く、次いで「家族と一緒に生活したい」(20.7%)、「グループホームなどを利用したい」(6.1%)となっている。

障害別にみると、身体障害のある方、知的障害のある方は「今のまま生活したい」が最も高くなっている。

(3)地域で生活するためにあればよいと思う支援

問 20 【問 18 で「4.」又は「5.」を選択した方にお聞きします。】地域で生活するためには、どのような支援があればよいと思いますか。(あてはまるものすべてに○)



地域で生活するためにあればよいと思う支援は、全体では「障害者に適した住宅の確保」が42.7%と最も高く、次いで「経済的な負担の軽減」(41.4%)、「必要な在宅サービスが適切に利用できること」(41.1%)、「在宅で医療ケアなどが適切に受けられること」(35.7%)となっている。

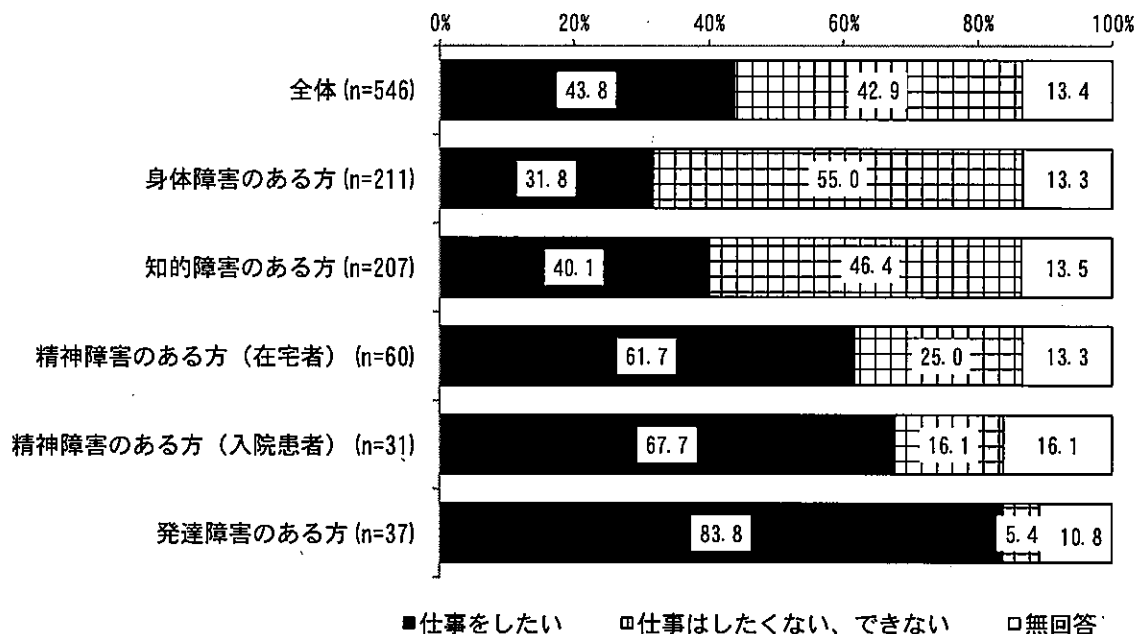
障害別にみると、身体障害のある方は「障害者に適した住居の確保」が47.8%と最も高く、知的障害のある方は「必要な在宅サービスが適切に利用できること」が41.3%と最も高くなっている。

	全体	在宅で医療ケアなどが適切に受けられること	障害者に適した住居の確保	必要な在宅サービスが適切に利用できること	生活訓練等の充実	経済的な負担の軽減	相談対応等の充実	地域住民等の理解	コミュニケーションについての支援	その他	無回答	
全体	314	35.7	42.7	41.1	26.4	41.4	31.2	27.4	25.5	3.8	26.1	
障害別	身体障害のある方	228	37.7	47.8	40.8	27.6	41.2	29.8	23.7	3.5	25.9	
	知的障害のある方	63	30.2	33.3	41.3	22.2	34.9	30.2	30.2	6.3	31.7	
	精神障害のある方(在宅者)	1	100.0	-	-	-	-	100.0	100.0	-	-	-
	精神障害のある方(入院患者)	21	28.6	14.3	42.9	23.8	61.9	42.9	19.0	28.6	-	14.3
	発達障害のある方	1	-	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	-	-

(7)今後の就労意向

問 27 【問 2 5 で、「1 . 」以外を選択した 18～64 歳の方にお聞きします。】

あなたは今後、収入を得る仕事をしたいと思えますか。(○は1つだけ)

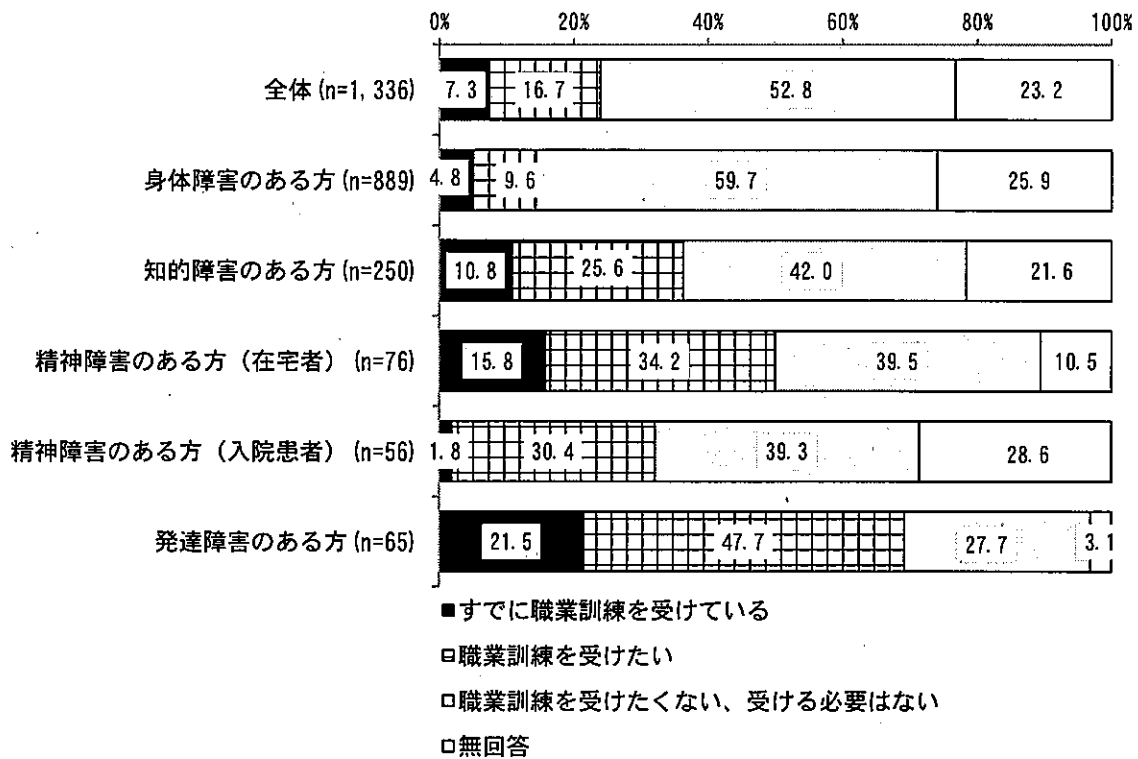


今後の就労意向は、全体では「仕事をしたい」(43.8%)、「仕事はしたくない」(42.9%)となっている。

障害別にみると、身体障害のある方、知的障害のある方は「仕事はしたくない」が「仕事をしたい」を上回っている。

(8)職業訓練の受講意向

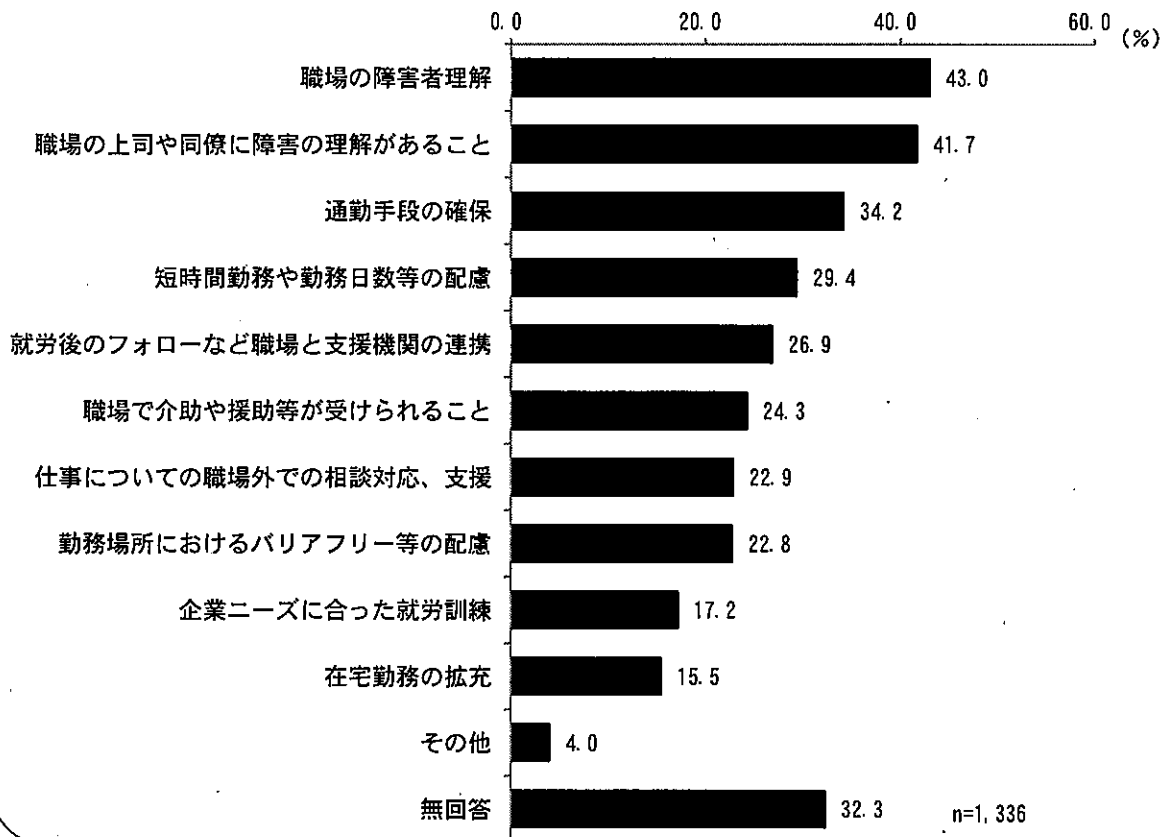
問 28 収入を得る仕事を得るために、職業訓練などを受けたいと思いますか。(○は1つだけ)



職業訓練の受講意向は、全体では「職業訓練を受けたくない、受ける必要はない」が52.8%と最も高く、次いで「職業訓練を受けたい」(16.7%)、「すでに職業訓練を受けている」(7.3%)となっている。障害別にみると、身体障害のある方は「職業訓練を受けたくない、受ける必要はない」が59.7%と最も高く、発達障害のある方は「職業訓練を受けたい」が47.7%と最も高くなっている。

(9)障害者の就労支援として必要なこと

問 29 あなたは、障害者の就労支援として、どのようなことが必要だと思いますか。
(あてはまるものすべてに○)



障害者の就労支援として必要なことは、全体では「職場の障害者理解」が43.0%と最も高く、次いで「職場の上司や同僚に障害の理解があること」(41.7%)、「通勤手段の確保」(34.2%)、「短時間勤務や勤務日数等の配慮」(29.4%)、「就労後のフォローなど職場と支援機関の連携」(26.9%)となっている。障害別にみると、身体障害のある方、知的障害のある方は「職場の障害者理解」が最も高く、精神障害のある方(入院患者)は「通勤手段の確保」、「職場の上司や同僚に障害の理解があること」、精神障害のある方(在宅者)、発達障害のある方は「職場の上司や同僚に障害の理解があること」が最も高くなっている。

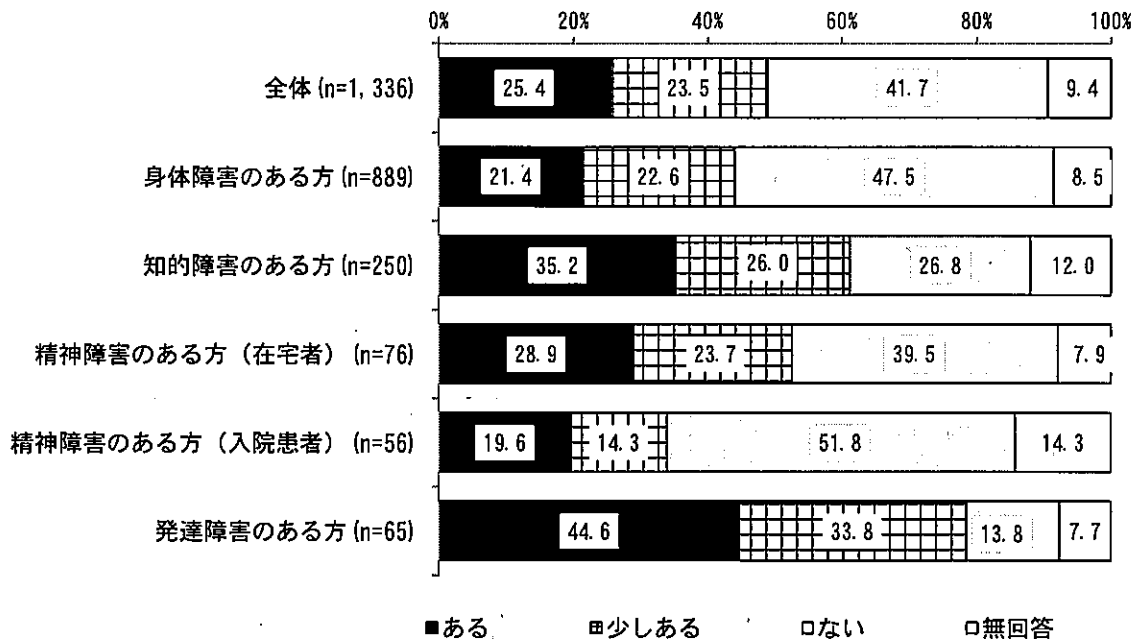
	全体	通勤手段の確保	バリアフリー等の配慮	勤務場所におけるバリアフリー等の配慮	短時間勤務や勤務日数等の配慮	在宅勤務の拡充	職場の障害者理解	職場の上司や同僚に障害の理解があること	職場で介助や援助等が受けられること	職場と支援機関の連携	就労後のフォローなど職場と支援機関の連携	企業ニーズに合った就労訓練	仕事についての職場外での相談対応、支援	その他	無回答
全体	1336	34.2	22.8	29.4	15.5	43.0	41.7	24.3	26.9	17.2	22.9	4.0	32.3		
障害別	身体障害のある方	889	30.0	27.6	26.8	17.9	36.7	35.3	19.0	18.4	14.2	17.1	5.2	37.0	
	知的障害のある方	250	44.8	16.0	32.4	8.4	55.2	51.6	42.8	37.6	17.6	28.8	2.8	26.0	
	精神障害のある方(在宅者)	76	43.4	10.5	36.8	9.2	46.1	47.4	14.5	44.7	19.7	38.2	-	15.8	
	精神障害のある方(入院患者)	56	35.7	8.9	30.4	17.9	33.9	35.7	8.9	26.8	19.6	16.1	-	41.1	
	発達障害のある方	65	38.5	9.2	44.6	15.4	86.2	89.2	49.2	80.0	52.3	67.7	1.5	3.1	

8 権利擁護

(1) 障害があることで差別や嫌な思いをする(した)ことの有無

問 39 あなたは、障害があることで差別や嫌な思いをする(した)ことがありますか。

(○は1つだけ)



障害があることで差別や嫌な思いをする(した)ことの有無は、全体では「ない」が41.7%と最も高く、次いで「ある」(25.4%)、「少しある」(23.5%)となっている。

障害別にみると、知的障害のある方、精神障害のある方(在宅者)、発達障害のある方は「ある(「ある」と「少しある」の合計)」が「ない」を上回っている。